

平成 22 年度 第 6 回常任委員会 議事録 (案)

日 時：平成 23 年 3 月 15 日 (火) 14:00～16:00

場 所：土木学会講堂

出席者：宮川委員長、岸幹事長、金津、河合、下村、武若、富田、西垣、二羽、丸山の各常任委員、佐藤 (靖)、信田、服部、濱田の各幹事、村木 (事務局)

配布資料：

- 6-0 平成 22 年度 第 6 回常任委員会 議事次第
- 6-1 平成 22 年度 第 5 回常任委員会 議事録 (案)
- 6-2-1 土木学会コンクリート委員会 規準関連小委員会 委員構成 (案)
- 6-2-2 土木学会コンクリート委員会 コンクリートのポンプ施工指針改訂小委員会委員構成 (案)
- 6-3 セメント系構築物と周辺地盤の化学的相互作用研究小委員会 (案)
- 6-4 平成 23 年度「重点研究課題 (研究助成金)」申請書
- 6-5 平成 23 年度全国大会開催に伴う研究討論会企画募集について
- 6-6 第 3 種小委員会に関する申合せ事項
- 6-7 JSCE Guidelines for Concrete
- 6-8 規準編アンケートについて
- 6-9 JST の Web 教材製作状況
- 6-10 第 55 回日本学術会議 材料工学連合講演会 土木学会・建築学会からのオーガナイズドセッションの提案 説明資料
- 6-11 開催行事の参加費について (ご協力をお願い)
- 6-12-1 若手/中堅実務者のためのコンクリート技術講習会
- 6-12-2 「コンクリートの施工性能の照査・検査システム」に関するシンポジウム
- 6-12-3 鉄筋コンクリート設計システム研究小委員会「成果報告会」
「鉄筋継手」Vol. 45, No. 4, 2011. 1

議 事

議事に先立ち、東北地方太平洋沖地震で亡くなられた方々への哀悼の意を込めて黙とうを捧げた。

1. 委員長挨拶 (宮川委員長)

宮川委員長より以下の挨拶があった。

「今回の常任委員会の中止も含めて考えたが、参加できる委員が限られるとしても、委員間の意見交換が重要だと考え開催した。参加委員数が少ないので、議事録を早めに用意しメール審議を経てこの

委員会での審議事項を確定させることとしたい。今日はできる限り短い時間で終了させたいのでご協力をお願いしたい。」

2. 前回（平成 22 年度第 5 回）常任委員会議事録の確認【資料 6-1】

服部幹事から議事録（案）の概略が説明され、仮承認された。

3. 審議事項

(1) 東北地方太平洋沖地震調査特別委員会への対応

阪田顧問（土木学会会長）より、東北地方太平洋沖地震発生以来の土木学会の取り組みの経緯の説明とコンクリート委員会への依頼があった。その要点を以下に示す。

- ・ 3 月 11 日にクライストチャーチ地震調査団の報告会を行っていた最中に地震が発生し、報告会を中断し直ちに東北地方太平洋沖地震対策本部を設置した。さらに、東北地方太平洋沖地震調査特別委員会の立ち上げ準備に入った。
- ・ 土木学会としてひとつに集約した調査団は組織しない。各委員会、さらには、複数の委員会の連携で調査団を組織させ調査を行ってほしい。
- ・ 土木学会のホームページの中に 2 つの専用サイトを設ける。そのひとつ（情報共有掲示板）はすでに用意した。もうひとつは、調査団の調査結果を各委員会が共有するためのサイトであり、これから用意する。そのために、委員会の連絡責任者を選定してほしい。
- ・ 昨日、東北地方太平洋沖地震調査特別委員会の準備会を招集した。コンクリート委員会からは二羽委員が参加した。特別委員会として、1 ヶ月を目処に今回の地震に対する提言を行うとともに、各委員会が組織する調査団の調査結果に基づき長期的に取り組むべき課題を整理し、その課題に取り組む。なお、提言の内容として、たとえば復興局の設置などが考えられる。
- ・ 東北地方太平洋沖地震調査特別委員会内に幹事团的な位置づけでタスクフォースを立ち上げる。コンクリート委員会からは丸山委員がメンバーである。
- ・ コンクリート委員会へは、コンクリート委員会としての調査団の結成と調査結果のサイトへのアップをお願いしたい。ただし、調査においては、被災された方々や復旧活動に従事している技術者の方々に対して十分配慮した上で、かつ調査団の安全性が確保される状況下で行ってほしい。また、もし海外の研究機関等からの合同調査の申し出などがあれば、コンクリート委員会で判断し対応してほしい。

その後、意見交換が行われた。以下に要約する。

- ・ 兵庫県南部地震や新潟中越沖地震の経験から情報の一元化が重要だと考えている。マスコミ対応をどうするのかも考えなければならない。つまり、窓口および情報発信者（表に出る人）をあらかじめ決めておくのが良い。信頼を損なうことのないように十分に注意してほしい。（丸山委員）
- ・ これまで示方書は、地震被害を教訓に改訂を重ねてきた。その時点での判断が正しかったのかの考察が必要ではないか。（宮川委員長）

- ・ 調査団を派遣するにあたり、まずは情報の集約が必要である。津波による被害と原子力発電所の状況に関しては多くの情報があるが、交通インフラ系施設がどの程度のダメージを受けているのかの情報が一切ない。(二羽委員)
- ・ JR やネクスコから情報を集めて対応するべきだろう。(丸山委員)
ここで、宮川委員長より以下の提案があり了承された。
- ・ コンクリート委員会としては、鈴木委員を委員長とし、二羽委員を副委員長、下村委員、信田幹事、大成建設の丸屋氏、東北大学久田教授および宮川委員長を立ち上げ時のコアメンバーとした対策小委員会を立ち上げる。
- ・ その活動費として、特別会計のコンクリート委員会活動助成金(約460万円)を活用する。
その後、対策小委員会の活動に関する意見交換が行われた。
- ・ 対策小委員会のメーリングリストとして、当面は常任委員会のメーリングリストを利用する。
- ・ ゼネコンは、鉄道・道路の各機関から物資と人の流れを確保するための支援要請を、土工協を通じて受けている。自治体からは補修の要請も受けている。
- ・ 東北地方整備局とPC建協東北支部がルート確保のための打ち合わせを行っている。橋梁の健全度(使用できるか否か)の判断が求められている。
- ・ 調査団を送った時に現地でどこに受け入れてもらえるのかを考えなければならない。
- ・ 原発のこともありすぐに乗り込むのは無理ではないか。
- ・ 港も使えず北上から支援を考えているが、ガソリンが無くて被災地に進めないようだ。道路がかなり損傷しており、路盤に使える砂や固化材がほしいという要請が多い。
- ・ 原子力発電所の状況に関する問い合わせがあるが、現場の状況がわからないので対応できない。

この件に関する議論・情報交換の終わりに、対策小委員会の委員長を務める鈴木委員が所属する東北大学が大きな被害を受けていることから、実質的には副委員長の二羽委員を中心に調査計画を立てること、外部とのやり取り(窓口)は下村委員が務めること、そして、コンクリート委員会として二羽委員を全力で支えることが確認された。

(2) 1種・2種小委員会 委員の追加・変更について【資料6-2-1, 6-2-2】

宮川委員長より、以下の委員の追加・変更について説明があり異議なく承認された。

▷ 規準関連小委員会：浦野真次氏(清水建設)から田中博一氏(清水建設)への交代

橋本親典委員から丸岡正知氏(宇都宮大学)への交代

▷ ポンプ施工指針改訂小委員会：吉田正敏氏(日本建設機械工業会)の追加

(3) 第3種小委員会設置提案【資料6-3】

当初説明予定であった前川委員が欠席のため、岸幹事長から第3種小委員会「セメント系構築物と周辺地盤の化学的相互作用研究小委員会」(委員長候補：石田哲也准教授(東京大学)、幹事長候補：半井健一郎准教授(群馬大学))の概要説明と設置提案がなされ、これが認められた。

セメント協会において重金属を対象とした研究が行われており、その成果を必要に応じて活用していただきたいとのコメントがあった。

(4) その他

- ・ 河合委員より、219 委員会幹事の河井氏より幹事退任の申し出があった旨報告があった。その事情を鑑みて、宮川委員長より河井氏の幹事退任の提案がありこれが認められた。
- ・ 亡くなられたセメント協会の村田氏が委員を務めていた委員会で、セメント協会から新たな委員が必要ならば、富田委員に連絡することになった。

4. 報告事項

(1) 平成 23 年度重点研究課題助成への応募【資料 6-4】

信田幹事より以下の説明があった。

- ・ コンクリート委員会から、横田委員を研究代表者とした「社会基盤施設の設計と維持管理の連携システムの構築に関する研究」を提案した。
- ・ 昨日、研究企画委員会としての採択テーマ候補の選定が行われる予定であったが、委員会が延期になった。次回の日程はまだ決まっていない。
- ・ 今回の被災を受け、土木学会として重点研究課題の対象を当初予定のままとすることでよいのか、研究企画委員会で議論される可能性もあるが、現時点では、コンクリート委員会としての提案研究は変更しない。

(2) 平成 23 年度全国大会研究討論会の企画募集【資料 6-5】

服部幹事より、ここ数年コンクリート委員会では、全国大会研究討論会を重点研究課題の発表の場として活用しており、特に提案がなければ、昨年度の重点研究課題「CO₂削減を考慮したコンクリート構造物の解体、再利用、補修技術に関する研究（委員長：河合委員）」を討論会企画とすることを含め新旧幹事会ならびに河合委員で検討して応募したいとの幹事会案が説明された。異論なく了承された。

(3) 第 3 種小委員会の運営方法に関する申合せ事項【資料 6-6】

岸幹事長より、事務局の負担の軽減と委員会間の公平性の確保の観点から見直しを行った、第 3 種小委員会の申合せ事項（案）が説明された後、意見交換がなされた。以下に要約する。

- ・ 提案者は常任委員であるべきなので補足 2 は削除した方が良い。
→削除する。
- ・ 「一律に 5 万円を配分する」というより、「申請すれば 5 万を限度に使用できる」とした方が良いのではないか。
→そのように修正する。
- ・ CD-ROM 版は電子版の誤りではないか。

→その通りであり、現行版の記述を修正する。

- ・ 第3種小委員会の申合せ事項はコンクリート委員会のホームページ上にアップされているのか。
→アップされているが、アクセスしにくい場所にあるので改訂版をアップする際に改善する。
- ・ 今日出された意見を反映させた案を次期幹事会に引き継ぎ、次回の常任委員会で審議する。

(4) 示方書および指針類の英文版の今後の発刊【資料 6-7】

岸幹事長より以下の説明があった。

- ・ ホームページにアップすることが決まっている示方書英訳版の表紙に JGC (JSCE Guidelines for Concrete) の黄表紙を使用する。出版委員会の承認は得ている。
- ・ 第2種小委員会で作成した指針類の英訳版を用意していただいているが、これを機会に、最近の指針英訳版を示方書英訳版とともに JGC シリーズに加えアップする。シリーズ内の番号は資料 6-6 の通りとする。
- ・ JGC No. 11 までは現在も販売されている。それゆえ、それらも無償ダウンロードできるようにするには出版委員会との調整が必要となる。
- ・ 資料 6-7 では示方書施工編 2002 年版と 2007 版の英訳名が異なっているので再度確認する*。

※委員会後、資料 6-7 では施工編 2007 年版の英訳名が Construction となっていたが、正しくは、Materials and Construction であることを確認した。

(5) 規準編アンケート（規準関連小委員会（102）委員会）【資料 6-8】

服部幹事および濱田幹事より以下の説明があった。

- ・ 規準関連小委員会では、規準編の電子媒体化の是非を問うアンケートを実施する。
- ・ 資料 6-8 の最後の行が削除されたものがアンケートとして使用される。

(6) WEB ラーニング教材（コンクリート教育研究小委員会（201 委員会））【資料 6-9】

服部幹事より、JST の Web 教材が 3/7 に納品されたとの報告があった。

(7) 学術文化事業（特別会計：古代ローマ、コンクリート調査研究助成金、コンクリート委員会活動助成金）の処理

岸幹事長より以下の説明があった。

- ・ 公益法人化に伴う対応として、事務局より、各種助成金の整理をしたいので、残額が少ない勘定科目については今年度末で廃止することが求められた。
- ・ 古代ローマコンクリート助成金の残額（約 27 万円）は、ローマコンクリート調査委員会の委員会費として使用する。
- ・ コンクリート調査研究助成金の残額（約 4 万円）は、幹事会費用として使用する。
- ・ コンクリート委員会活動助成金（約 460 万円）は、来年度以降も継続し、東北地方太平洋沖地震に

対する活動費に充てる。

(8) 第 55 回材料工学連合講演会オーガナイズセッション【資料 6-10】

服部幹事より、昨年度と同じテーマ（コンクリート構造物の点検・非破壊試験の現状と将来展望）を企画したとの報告があった。なお、開催日は 10 月 19 日から 21 日のうちの半日から 1 日程度で、講演申込み締切りは 7 月上旬であるとの補足説明があった。

(9) 開催行事の参加費について【資料 6-11】

服部幹事より、行事参加費の会員と非会員の差を十分（4000 円程度）とること、また、学生会員の行事参加費は個人正会員の 1/2 以下にすることが調査研究部門より依頼されていることが報告された。

調査研究部門主査理事を務めている丸山委員から、会員のメリットを出すためのひとつの例であり、今後の講習会等開催時の参考にしていただきたいと補足された。

(10) 講習会・シンポジウム等開催案内・報告

a) 若手／中堅実務者のためのコンクリート技術講習会（案内）【資料 6-12-1】（宇治委員代理で服部幹事）

▷ 2011 年 3 月 25 日（金）13:00～17:50 土木学会講堂

b) 「コンクリート施工性能の照査・検査システム」に関するシンポジウム（案内）【資料 6-12-2】（橋本委員代理で服部幹事）

▷ 2011 年 4 月 15 日（金）13:30～17:30 土木学会講堂

c) 鉄筋コンクリート設計システム研究小委員会「成果報告会」（案内）【資料 6-12-2】（服部幹事）

▷ 2011 年 4 月 15 日（金）13:00～17:00 土木学会講堂（案内）

※資料 6-12-2 の丸山委員の所属「長岡技術化学大学」を「長岡技術科学大学」に修正。

(11) その他

岸幹事長より、コンクリート教育研究小委員会主催の技術講習会と示方書講習会では、参加費の中に吉田博士記念基金への寄付金 500 円が含まれているが、今後は、他の講習会でも同様な対応ができるようにしたいので、各小委員会が講習会を企画する際には、事務局もしくは幹事会から、主旨の説明と寄付への協力の可否を打診し、賛同していただける場合には協力してもらいたいとの提案があった。次期幹事会に引き続き検討していただくことになった。

5. その他

3 月 29 日に新旧委員長・幹事長の引継ぎがある。新年度の第一回常任委員会の開催日は GW 明けで調整する。

最後に、岸幹事長、佐藤幹事、信田幹事、服部幹事、濱田幹事から退任にあたり挨拶があり、宮川

委員長より、土木構造物の重要性を市民に伝える努力と土木構造物のあるべき姿を追い求める心を持ち続けることの大切さが述べられた後、委員への感謝の意が表されるとともに次期委員長への協力が要請された。

以上